
赤潮注意報続報（シャットネラ マリーナ）

鹿児島県水産技術開発センター
令和5年8月17日

鹿児島湾 赤潮注意報 No.2-3

[1] 8月17日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

シャットネラ マリーナはSt.④, ⑧, ⑫でそれぞれ1細胞/mL確認されました。
珪藻類はSt.②, ③, ⑨, ⑩でやや少なく、他のSt.は多い状況でした。

(2) 海況

平年値と比べ、表層水温はやや高く湾奥部で28.9~30.6℃、湾中央部で28.1~29.0℃。
表層塩分はやや低く25.8~30.7、透明度もやや低く4.0~13.5mとなっています。

水温：平均 29.4℃ 湾奥部 29.7℃ 湾中央部 28.4℃
塩分：平均 28.1 湾奥部 27.4 湾中央部 30.2
透明度：平均 5.9m 湾奥部 4.5m 湾中央部 10.1m
(平年値は平成元年~令和4年の8月の平均値)

【鹿児島県水産技術開発センター調査】

鹿児島湾赤潮調査結果

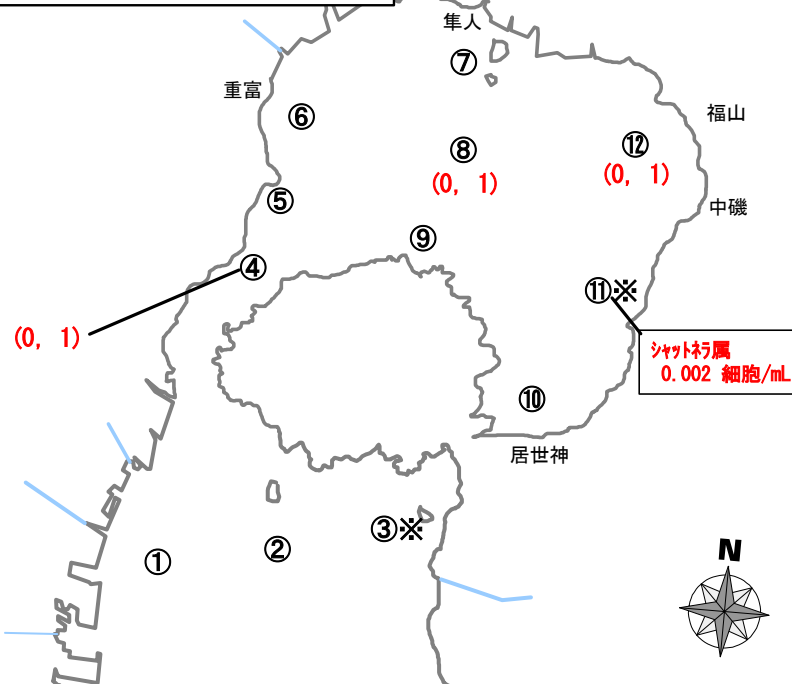
調査日：2023.8.17(木) 大潮
天候：晴れのちくもり
調査時間：7:23 ~ 11:56

赤潮注意報続報

- ・通常検鏡でシャットネラ マリーナを最高1細胞/mL確認 (St. ④, ⑧, ⑫)
(細胞密度の記載の無い定点では確認されず。)
- ・濃縮検鏡でシャットネラ属を確認 (St. ⑪)
- ・珪藻類はSt. ②, ③, ⑨, ⑩でやや少なく、他は多い。

() 内：0, 10m層のシャットネラ マリーナの細胞密度 (細胞/mL)

※は表層海水を濃縮検鏡 (1000倍) した調査定点



・平均表層水温：平均 29.4℃ (平年比+0.8℃, やや高め) (湾奥29.7℃ 湾中央28.4℃)
・平均表層塩分：平均 28.1 (平年比-2.2, やや低め) (湾奥27.4 湾中央30.2)
・平均 透明度：平均 5.9m (平年比-0.9m, やや低め) (湾奥 4.5m 湾中央10.1m)
●平年値は平成元年~令和4年の8月の平均値

鹿児島県水産技術開発センター

[2] 今後の赤潮発生の予想
現在は競合種である珪藻が多いものの、今後の状況によっては増殖する可能性があります。

各漁協・養殖業者におかれましては、定期的に検鏡等を継続し、注意をお願いします。

※シャットネラ マリーナの特徴

- ・適水温23~26℃
- ・適塩分30以下
- ・魚毒性が強く、致死細胞密度はブリ及びカンパチで約2,000細胞/mL

(次回調査は8月下旬を予定)

赤潮情報(携帯用)：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>

赤潮情報(パソコン用)：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/newHP/index.html>

